

和暦から感じる

込められた思い

◇昨年4月1日に新元号が「令和」に決まった。約4年前、天皇陛下が生前退位への強い思いを表明された。新天皇が即位すれば、元号が改められることになる。この時、「元号に基づく和暦を廃止し、西暦に統一したらどうか」という意見も出た。あるニュースサイトのアンケート調査による

と、和暦と西暦、両方あるのは面倒くさいと回答した人は全体の約半分だった。性別、年代別に集計すると、若い人ほど面倒でないと思っている傾向があったが、私も両方あって良いと考える。なぜなら、和暦には趣があるからだ。

に」という思いが込められている。だが、西暦には数字だけでこういう思いを感じ取ることができないと考える。

◇今回、元号が「令和」に決まったが、そこには「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように日本人が明日への希望を咲かせる国でありますよう

◇だから、私は日本人に生まれた以上、和暦はあつたほうが良いと思う。また、和暦に込められた思いを考える

と、日本人に生まれてきたことを意味深く思う。最近は、簡素化が進み履歴書を書く時などにも西暦で書く方が統一されていて分かりやすく、効率的と考えられがちだ。私は、簡素化だけが全てではなく、込められた意味を日本人一人一人が感じ取り、明日への希望を咲かせる国になるようにと願う。今回のことをきっかけにみんなで和暦を考える元年にしてもらいたい。

（山梨英和3年・鈴木理子）

（山梨英和3年・鈴木理子）